【様式①】令和6年度　学校評価書（小・中・特別支援）

学校名　岐阜市立加納中学校

校長名　村山 邦博

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	「未来を生き抜く力」の育成を目指し、「主体的に学習に向かう態度」を観点として、教科指導の実践を進める。その中で各教科が担う役割を考えながら、その教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。 また、学んだこと活用し、地域と連携・協働した教育活動になるように、総合的な学習の時間を軸にして展開する。	B	生徒による教育活動アンケートの回答は、主体的に学習に向かった：81.1%、協働学習により理解が深まった87.9%、他教科や総合的な学習の時間への活用：72.3%であった。学びの実感を得ることができたが、身に付けた資質・能力の活用に課題がある。総合的な学習では、「なりたい自分」をキーワードに、地域社会人講師から学ぶ機会を多く位置付けた。	学校全体として、明るく落ち着いた雰囲気であり、生徒が主体的に学ぶための基盤ができている。授業では、男女分け隔てなく活発に意見交流をし、自分の考えを話すことができ、学習に向かう姿も意欲的である。さらに地域と連携・協働を図り、地域の課題解決に向かって、地域活動に積極的に参画できるような生徒の育成を願っている。	「未来を生き抜く力」の育成を目指し、「主体的に学習に向かう態度」を観点として、生徒と「ねらい−見通し−ゴール」を共有しながら、教科指導の実践を進める。各教科が担う役割、教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。 総合的な学習の時間を軸にして、地域と連携・協働したり「本物」に触れる機会を大切にしながら、各教科の学びを活用して探究的に学ぶことができるように展開していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	コミュニティ・スクールの機能を活用し、総合的な学習の時間の発表会などの参観、資源分別回収などでの協働、加中寺子屋などへの参画を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 また、幼小中12年間の系統性を意識し、一貫性のある教育活動を展開する。	B	避難所運営ゲーム（HUG)では、災害時の対応について地域の方と共に考えることができた。また、総合的な学習の時間の成果を保護者に発表することができた。登下校の見守りについて、地域の方と共に考えることができた。 学校運営協議会では、幼稚園の園長や小学校の校長を委員に任命し、幼小中の系統性について交流することができた。	職業講話や学校行事に保護者や地域の方がより多く参加できるとよい。ボランティア活動などの経験をもとに、将来、地域で生きていく子供たちに、多くの地域ボランティアの活動を経験させたい。 学校運営協議会では、幼小中の系統性のある教育活動について交流することができたのはよかった。	コミュニティ・スクールの機能を活用し、総合的な学習の時間の発表会などの参観、資源分別回収などでの協働、防災教育・職業講話などへの参画を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 また、幼小中12年間の系統性を意識し、一貫性のある教育活動を展開する。
あたたかさと働きがいにあふれる学校づくり	生徒のありのままを受け止め、「どの生徒も伸びようとしている」という生徒観のもと、あたたかさにあふれる学校づくりを推進していく。 生徒にとって魅力ある授業や教育活動を展開できるよう工夫し、「学校が楽しい」と生徒が言える環境づくりを行う。人間関係づくりを大切にし、挨拶と笑顔があふれる生徒会活動や職員室経営を展開する。	A	「学校が楽しい」の生徒回答は82.6%と昨年より2.7ポイント増加している。また、「自分の考えを伝えるとともに、相手と折り合いをつける」については、87.3%の生徒が「できた」と回答している。「学校で進んで挨拶している」の質問に対し、回答は72.1%と昨年度並みであり、挨拶を返すことができるが主体的に行う点では弱さがある。	生徒が明るい表情で学校生活を送っている。教師との距離感もよく、授業にも安心感をもって意欲的に向かっている。今後も、「どの生徒も伸びようとしている」という本校の教育観、生徒観を大切にし、あたたかさと働きがいにあふれる学校づくりを展開してほしい。	発達支持的生徒指導を軸に、「どの生徒も伸びようとしている」という生徒観のもと、生徒のありのままを受け止め、あたたかさにあふれる学校づくりを推進していく。 生徒にとって魅力ある授業や教育活動を展開できるよう工夫し、自己有用感を抱き、「学校が楽しい」と生徒が言える環境づくりを行う。人間関係づくりを大切にし、挨拶と笑顔があふれる生徒会活動や職員室経営を展開する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修（HUG）を実施し、地域の方との連携を図る。（命の尊厳） デジタルシチズンシップに関わる講演とともに、定期的にタブレットの適切な使用についての指導を進める。	B	外部講師を招いて実施した避難所運営ゲーム（HUG)では、地域の方と共に災害時の対応について考えることができた。 情報主任・担任による情報モラル教室を実施した。「安心・安全・快適なタブレットの活用」については、93.6%の生徒ができていると回答しているが、SNSを介したトラブルは少なくない。問題点に気付かせ、意識を高めていく必要がある。	災害時には、防災学習を生かして、中学生が地域に貢献することを期待している。今後も、具体的な想定で学習を進めていくとよい。 情報モラル教育のSNSトラブル防止は、いじめの未然防止にもつながるので、指導の充実を図るとよい。	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修を実施し、地域の方との連携を図る（命の尊厳）。 デジタルシチズンシップに関わる講演とともに、定期的に情報機器の適切な使用についての指導を進める。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的な実践にするため、 ICT機器の活用について、より適した方法を生徒と試行錯誤し、共有する。（教育DXの推進） 外部講師の講演など、オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容を吟味検討し、ハイブリットに進めていく。また、地域人材の交流等も含め進めていく。	B	「ICT機器を活用している」という質問については、生徒回答が91.0%であった。教師も生徒もICTを積極的に活用している。さらに有効な活用方法や、教育的効果を吟味しながら、活用の場の取捨選択について考えていきたい。	生徒の情報機器の活用能力は高く、授業の様々な場面で積極的に扱っており、教育的効果も期待できる。生徒の資質・能力の育成に、より有効かつ効果的なICT機器活用の仕方を引き続き吟味していくとよい。 外部講師の講演などこれからも、「本物」の素晴らしさに触れる機会を大切にしていくとよい。	生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的なICT機器や情報の活用について、より適した方法を生徒と試行錯誤し共有する。 地域人材の交流など、生徒がより実感をもって学びを進めていくことができるように工夫していく。

HPアドレス：　https://gifu-city.schoolcms.net/kanou-j/